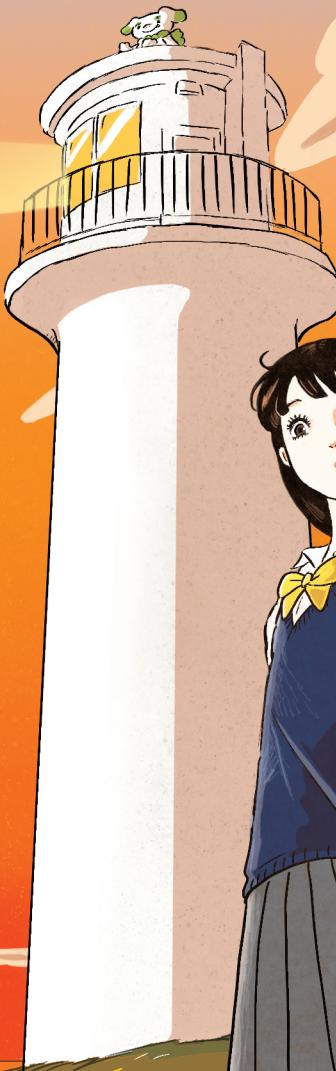


AOYATODAI MONOGATARI

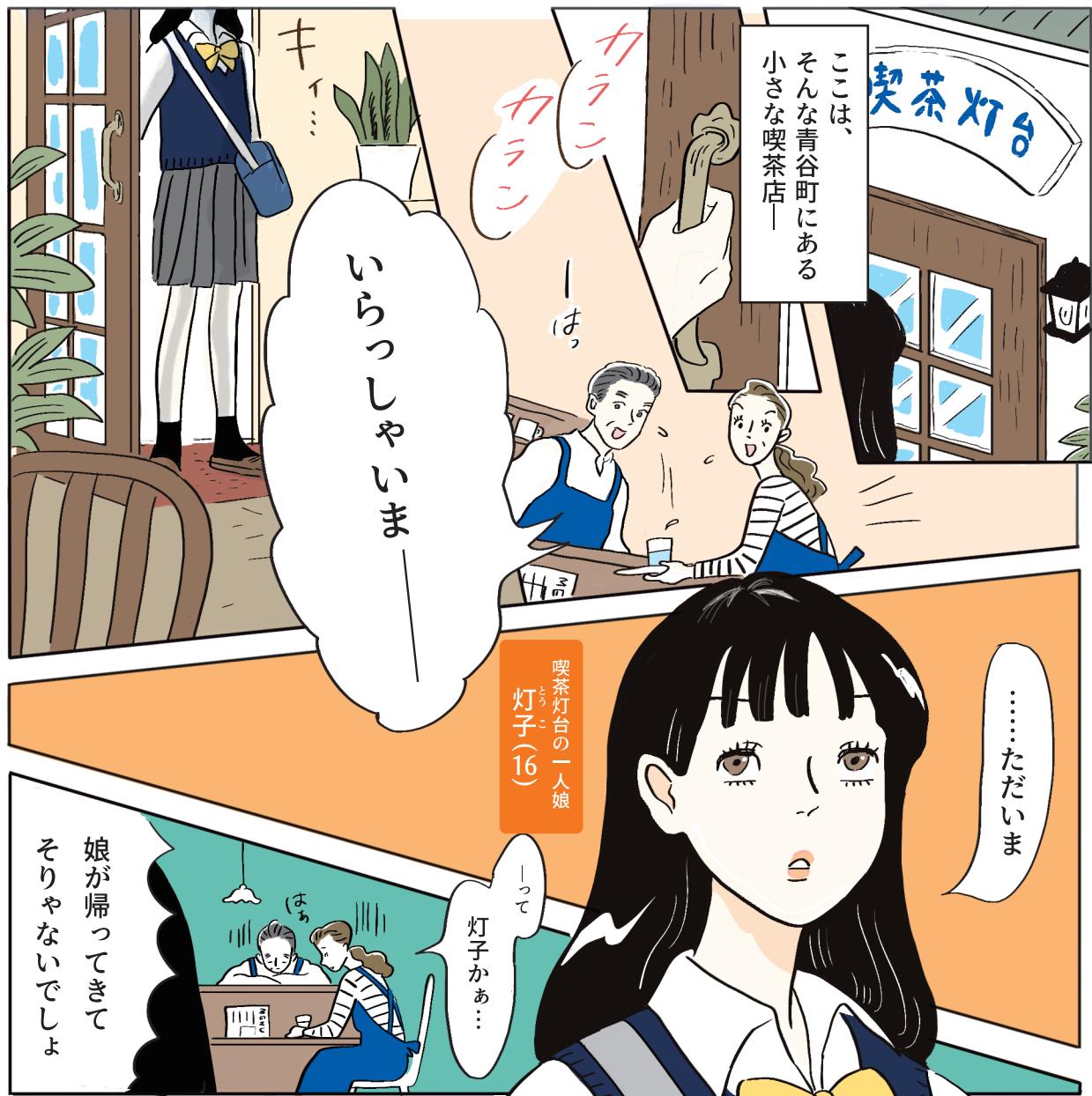
青月谷灯ひの物語。

そこにあつたのは鳥取の海のロマン

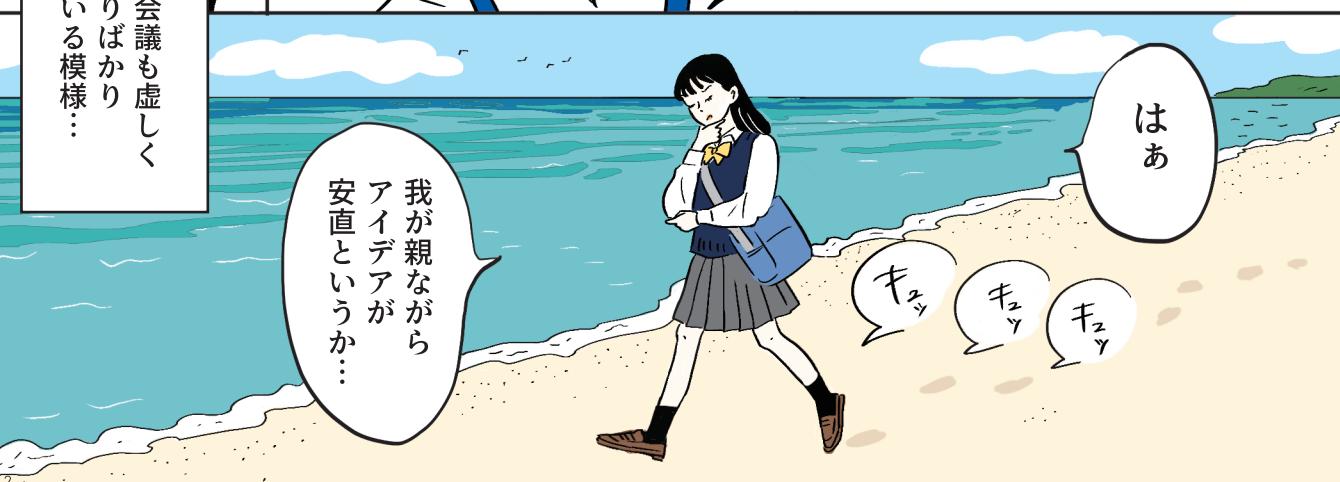
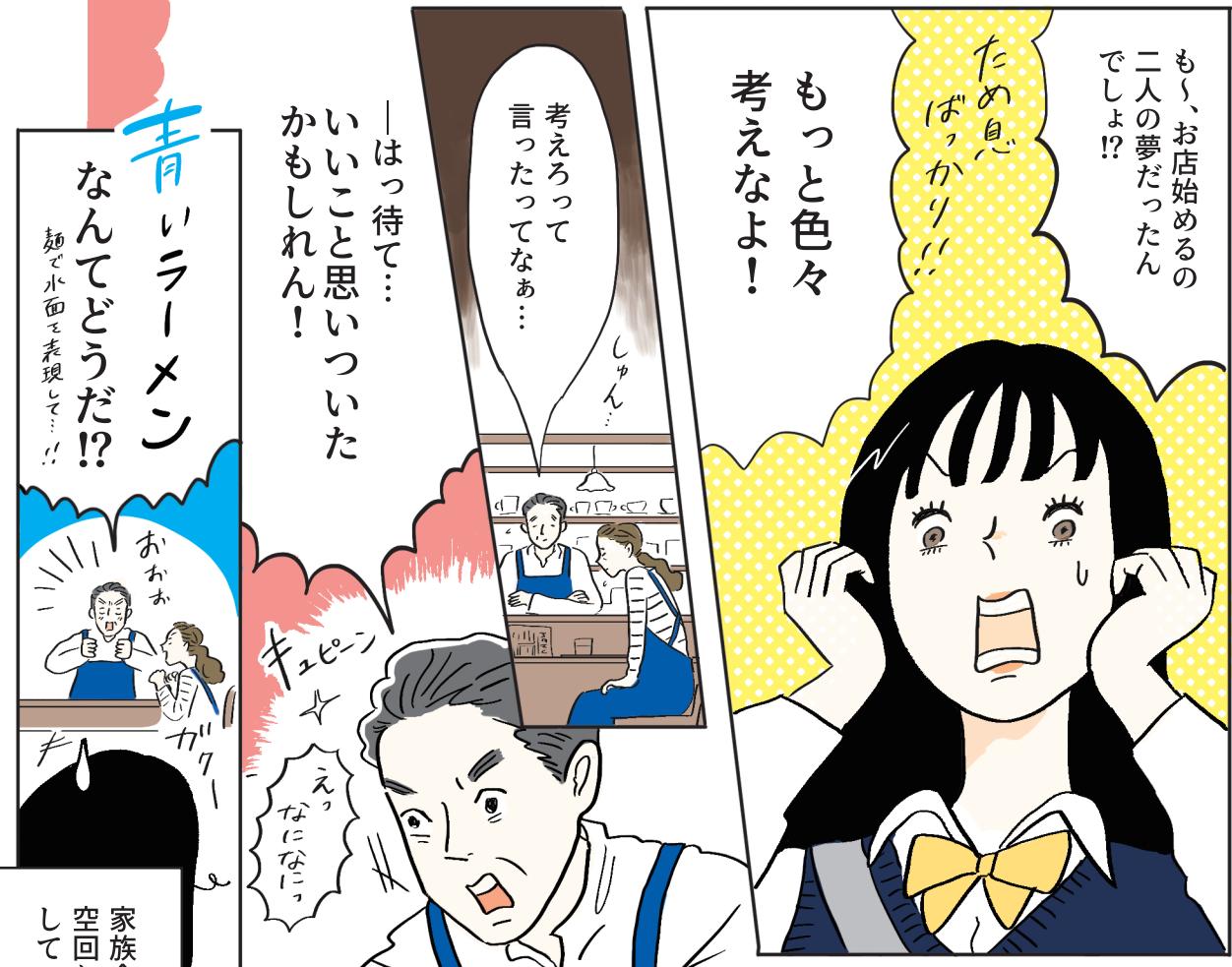


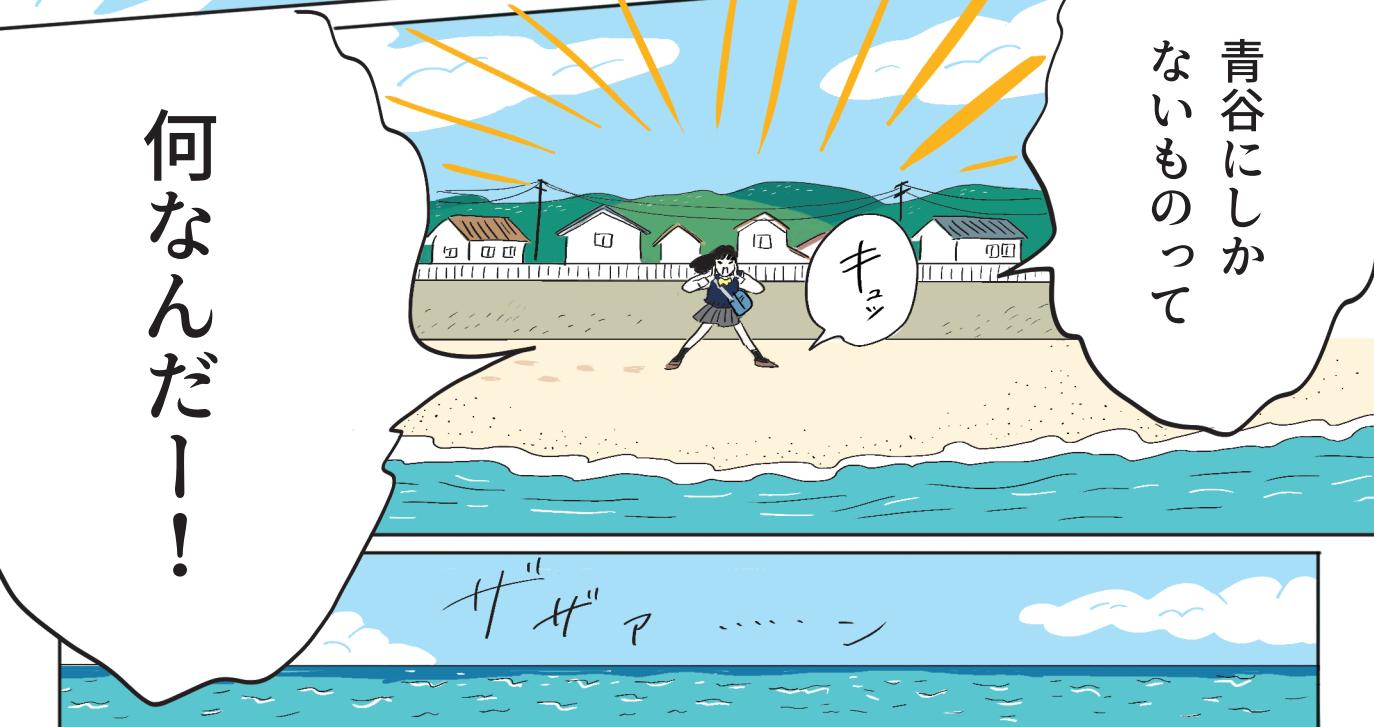
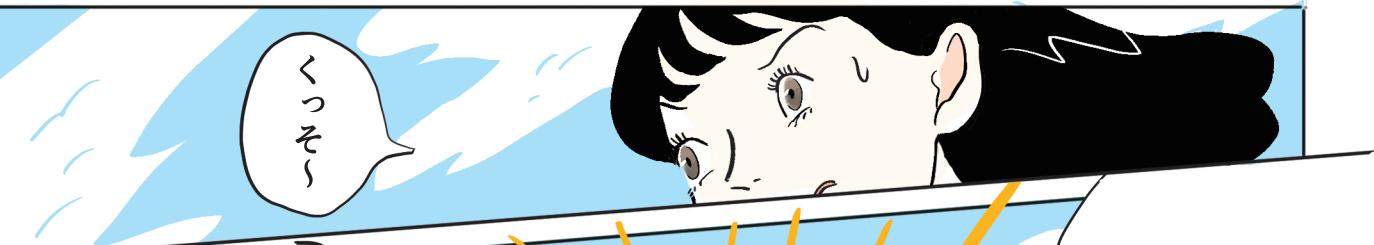
鳥取県の真ん中より
少し東にある
鳥取市青谷町。

海と山に囲まれた
人口六千人程の
のどかな町：



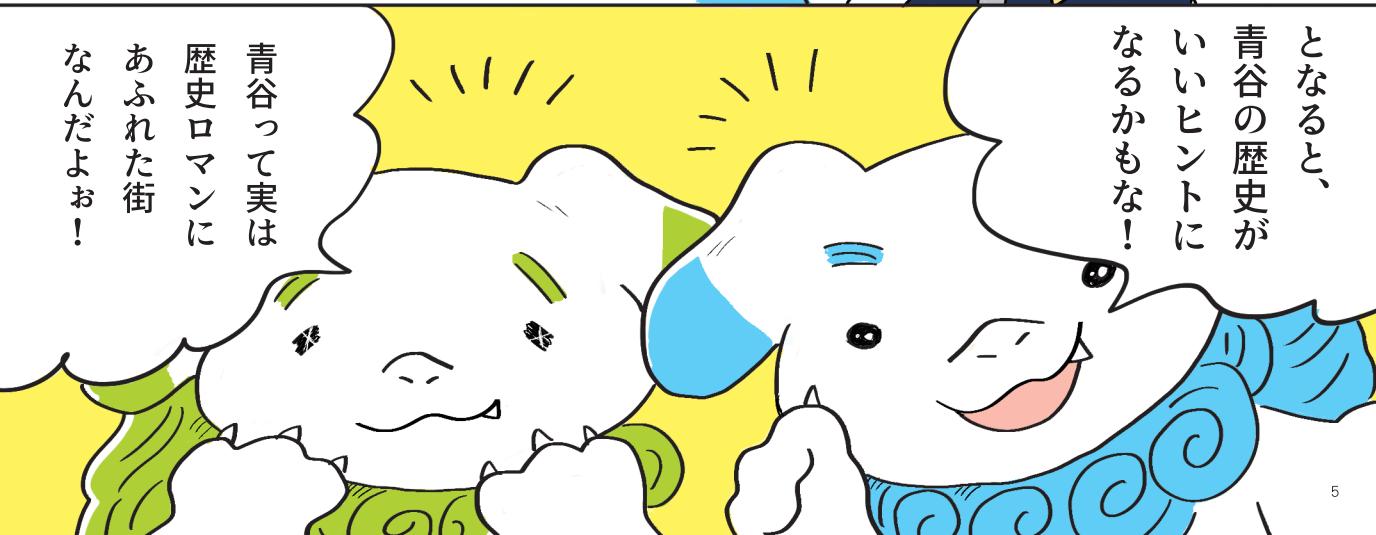
どうやらお店は
あんまりうまく
行つてないみたいで…

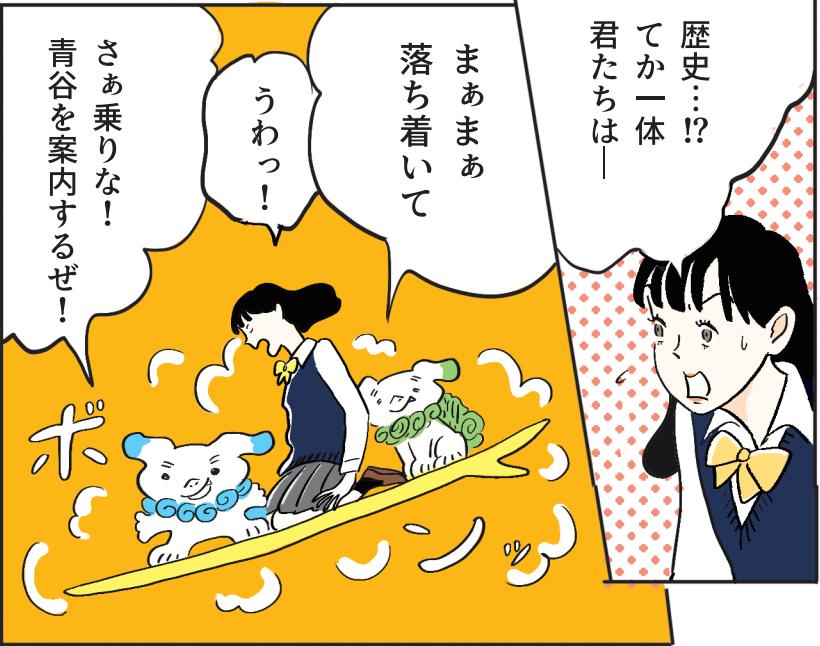




こ、
狛犬!?

*きれいな海 石英のきれいな砂 青谷には全国有数の鳴り砂の浜がある。
な音が鳴る砂 青谷には全国有数の鳴り砂歩くと不思議
YouTube 海の教室 烏取 鳴り砂





青谷は
大むかしから海と
密接に関わってきた
町なんだ

特にあの「長尾鼻」



よーし
早速その時の
様子をみてみよう!

へつ
!?

長尾鼻…
存在は知りません

「長尾鼻」「弥生時代」「港町」
この3つがポイントだよ

ここは……?

あ、あれ



あの岬があることで
青谷にしかない歴史が
生まれたんだ

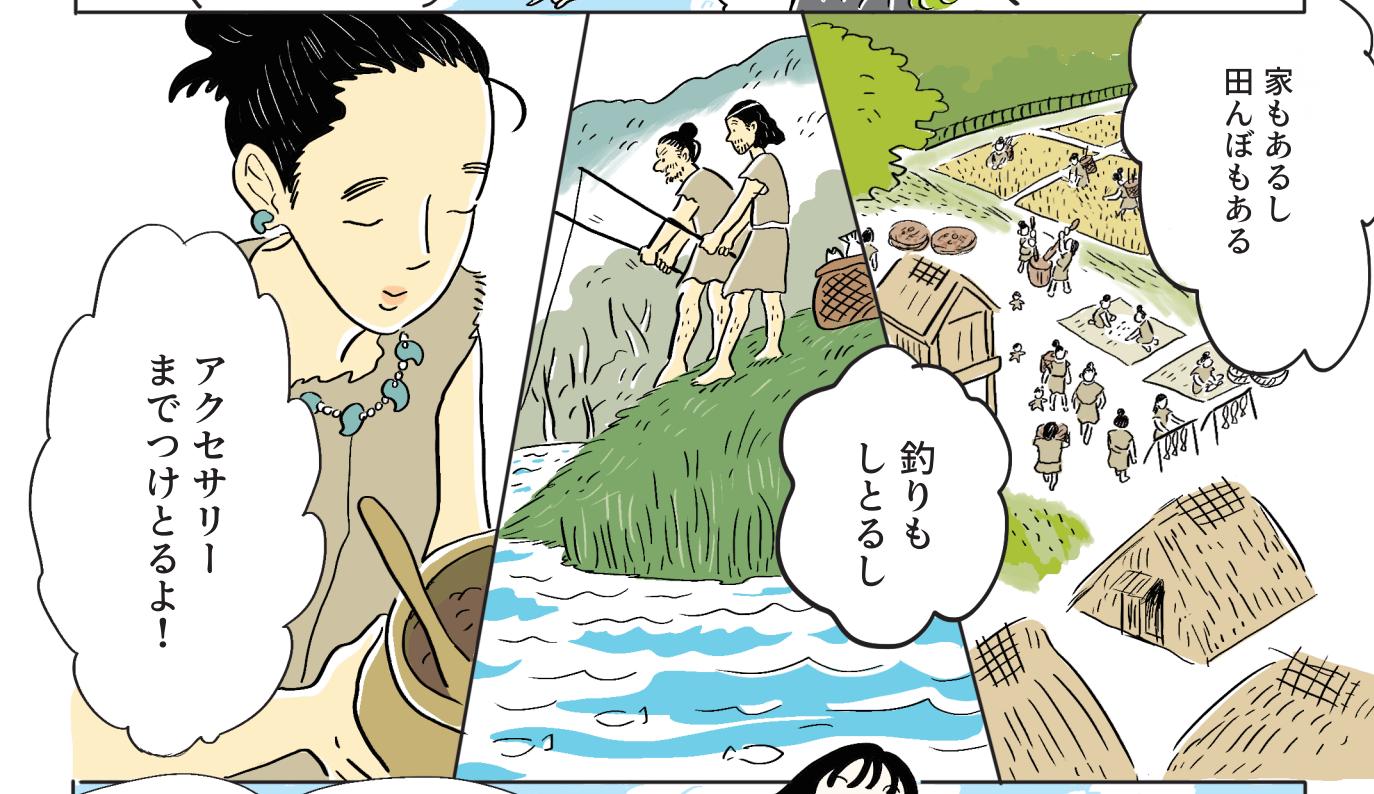
MAP

鳥取県最大の岬
長尾鼻

青谷町

鳥取市

八頭町



こんなに
たくさん人が
暮らしどった
んだ!!

そう、このころ青谷は山陰地方を代表する港町だつたんだ

中古や朝鮮半島とも交流があつたんだ
渡来人も来たりしてたんだ

岩場が多く魚や貝が豊富だ

すでにお米も作つていたし、漁業も始まつて

青谷が港として栄えたのは

長尾鼻の存在があつたのも大きいんだぜ

海から見るととんがつて見えるから、自然とここが目印になつて港の入り口になつたんだ

長尾鼻↓

へえ～！

新しい文化や技術が伝わって、青谷は栄えて行つたんだ

たくさんの人やものが集まり、行き交う中で



その証拠に
「青谷上寺地遺跡」

地下の弥生博物館と
言われるくらい、
たくさんのが
発掘された！



日本最古の脳が
3点も見つかったんだ

出土品の中でも特に
びっくりなのは、
『弥生人の脳』！



史跡公園も
建設中だよ

ちなみに出土品は

そんなのも
出てたんだ！

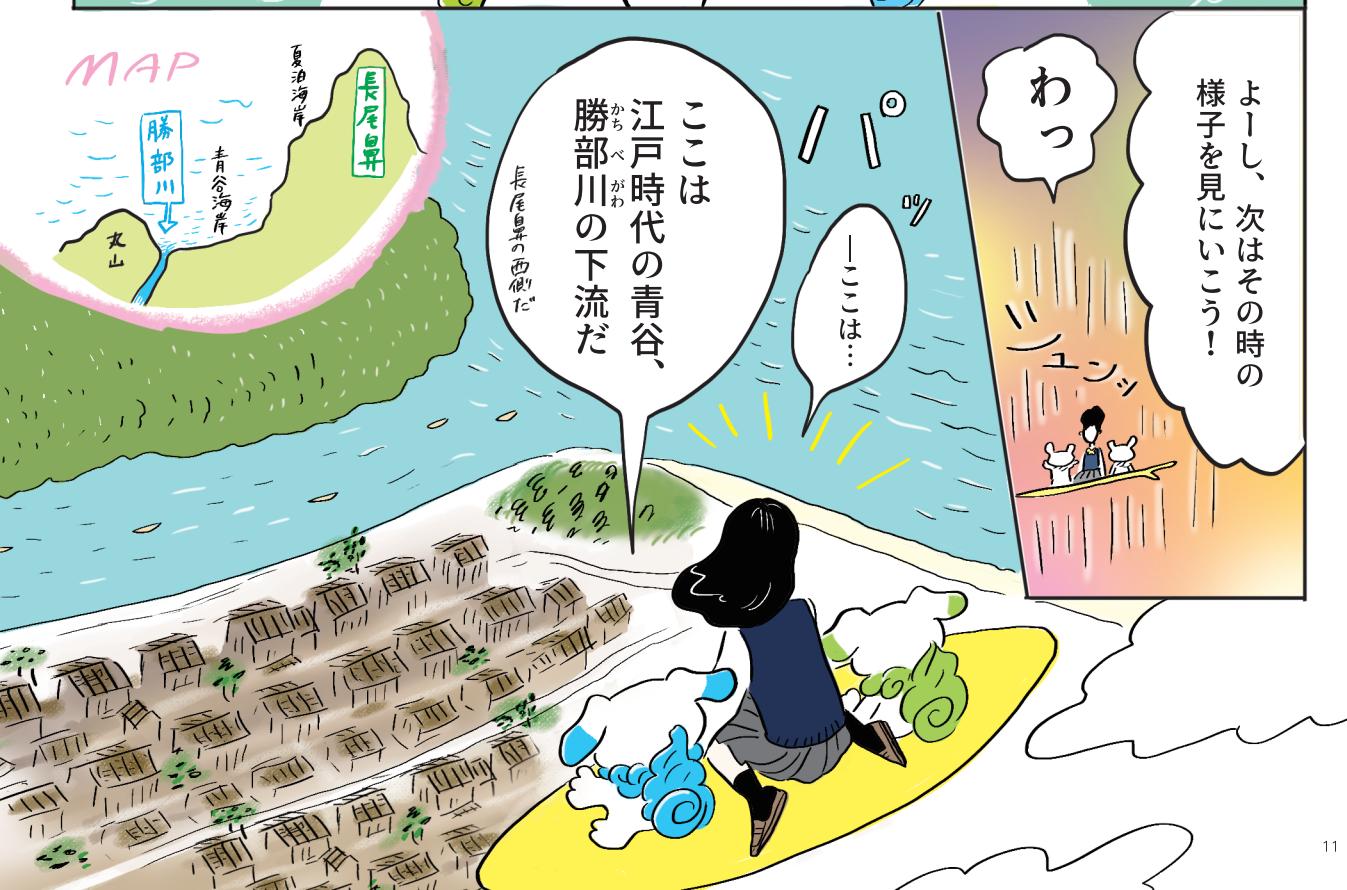
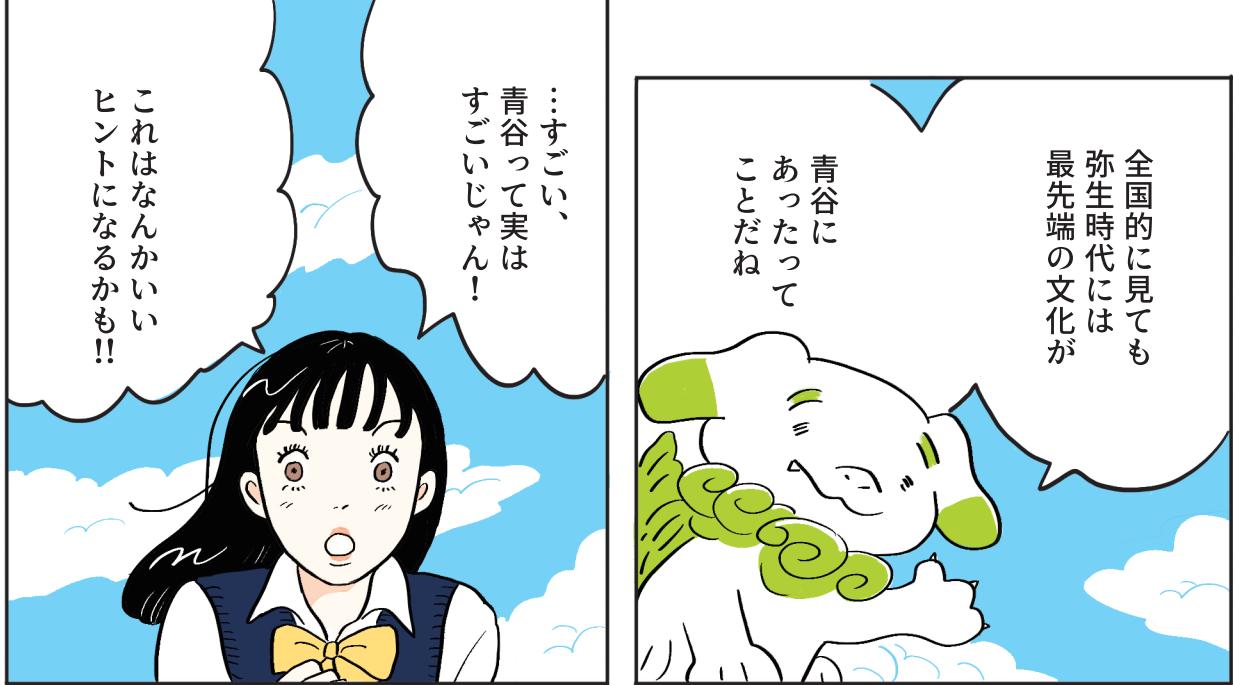
の、脳…！

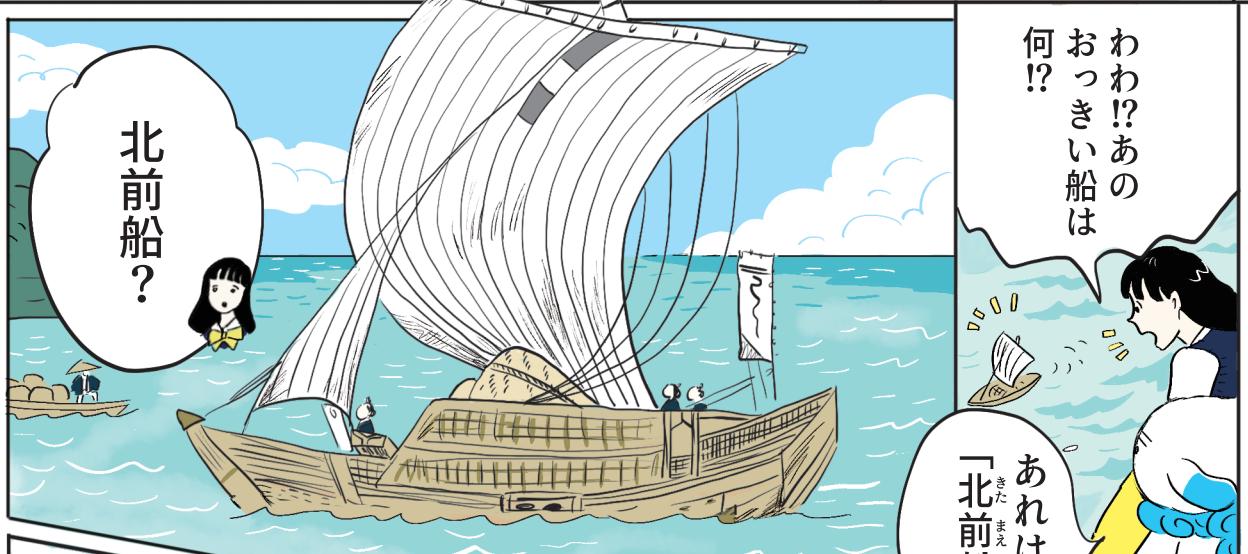
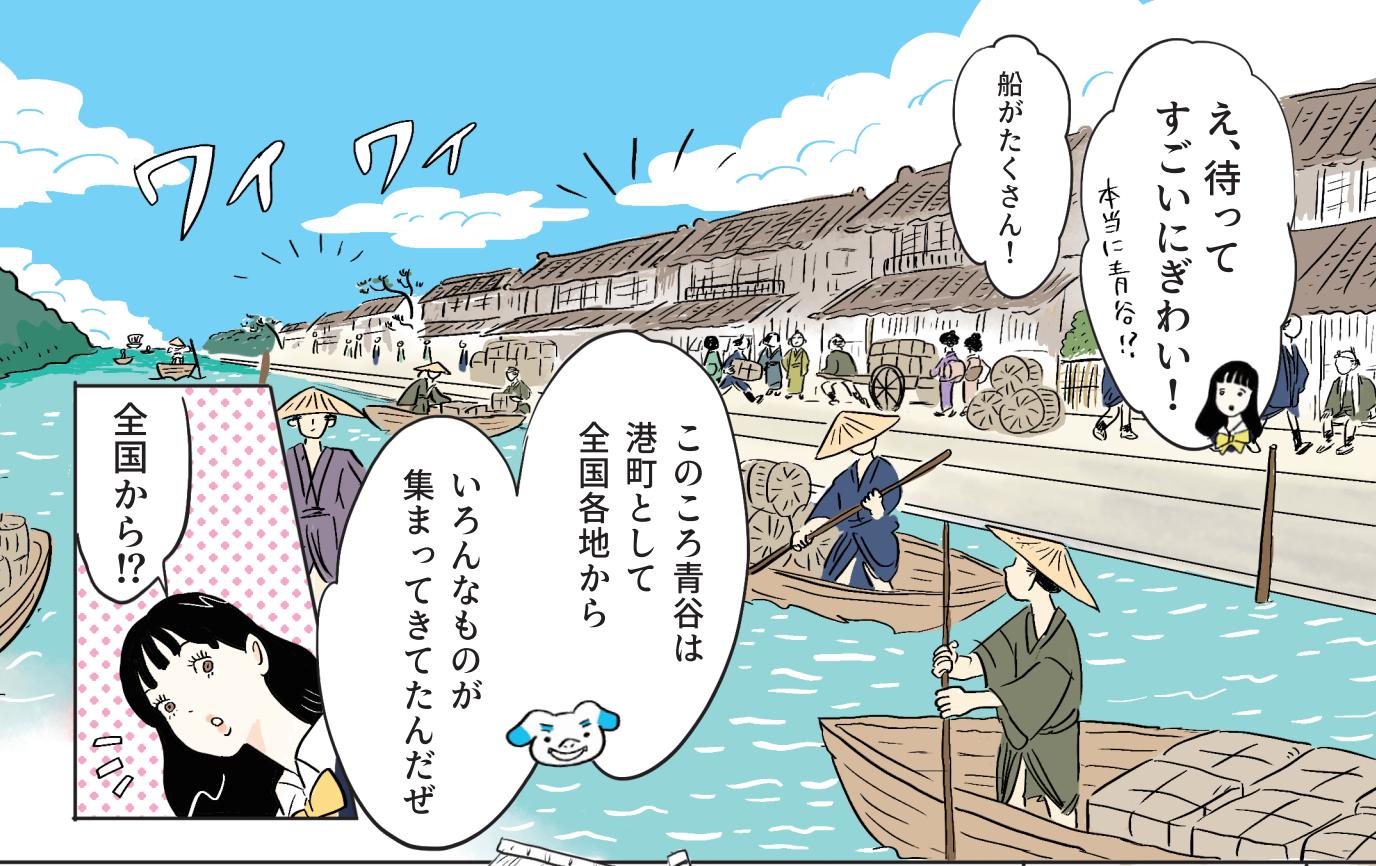
「青谷上寺地遺跡展示館」
で見られるぞ



令和5年
OPEN予定！

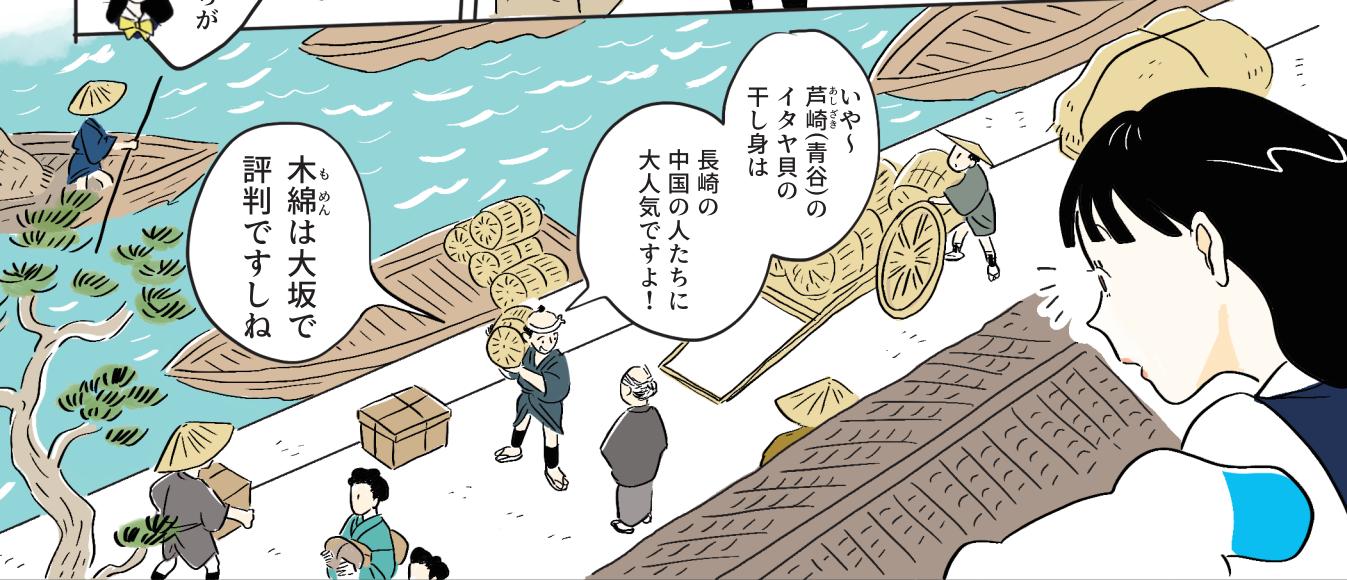
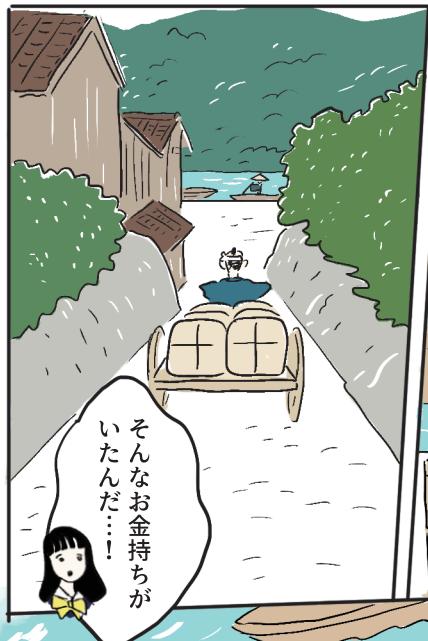


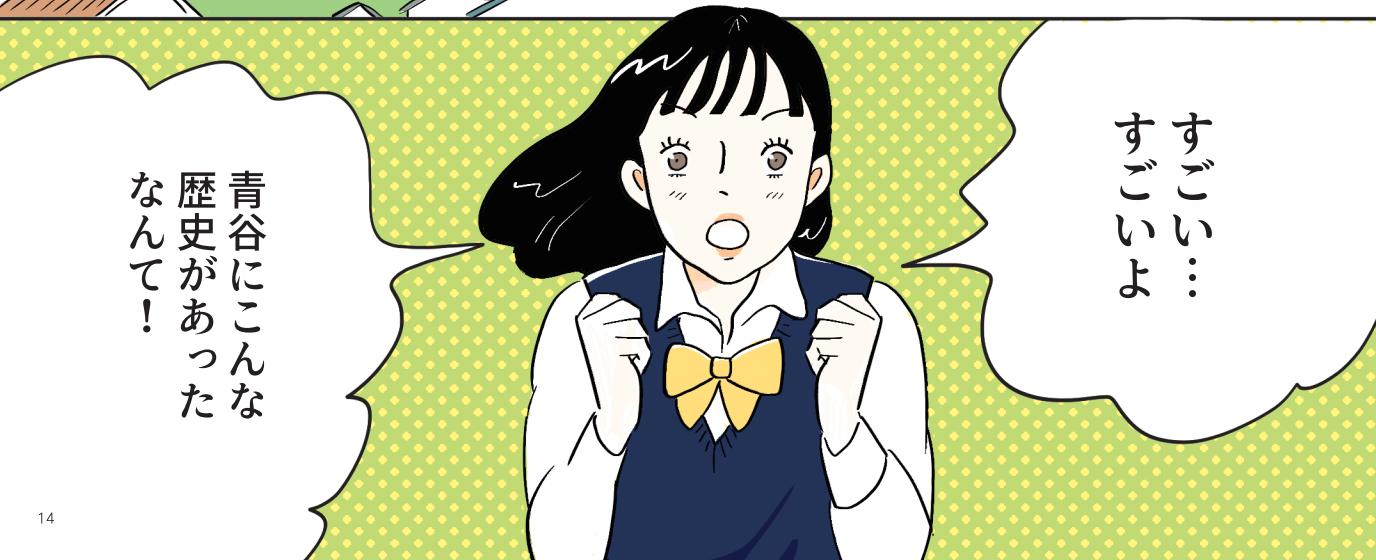
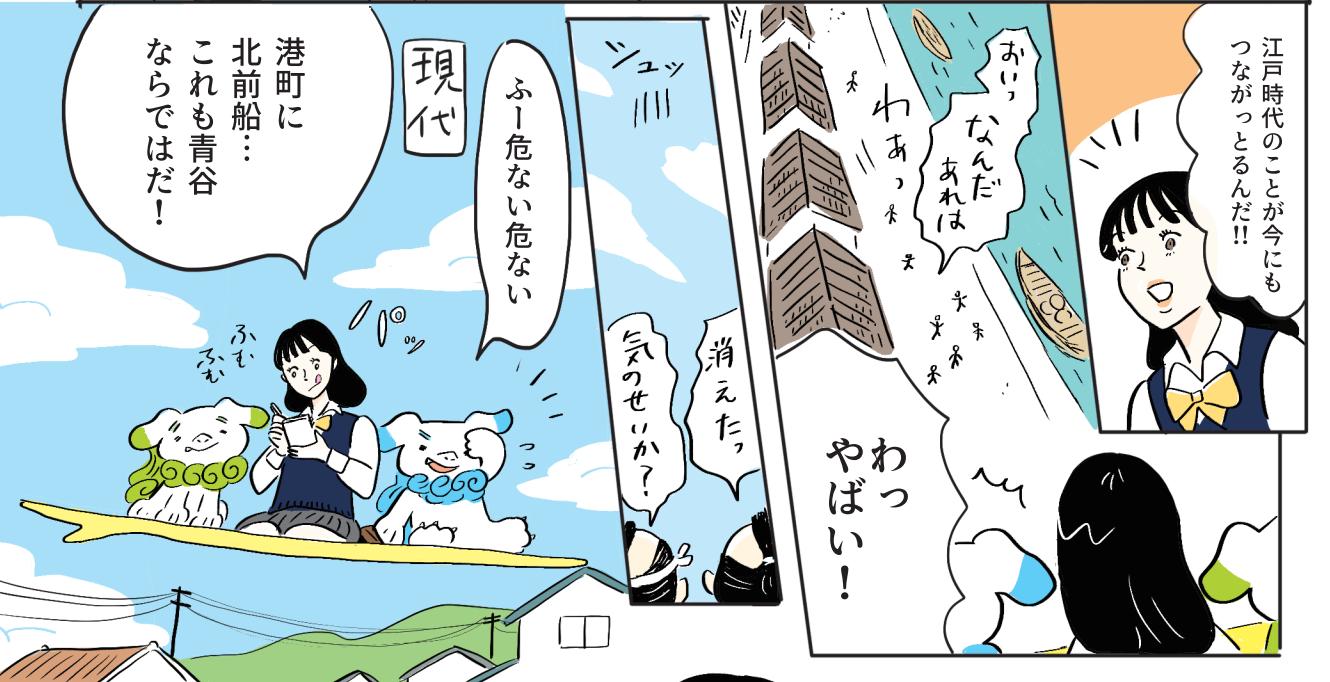
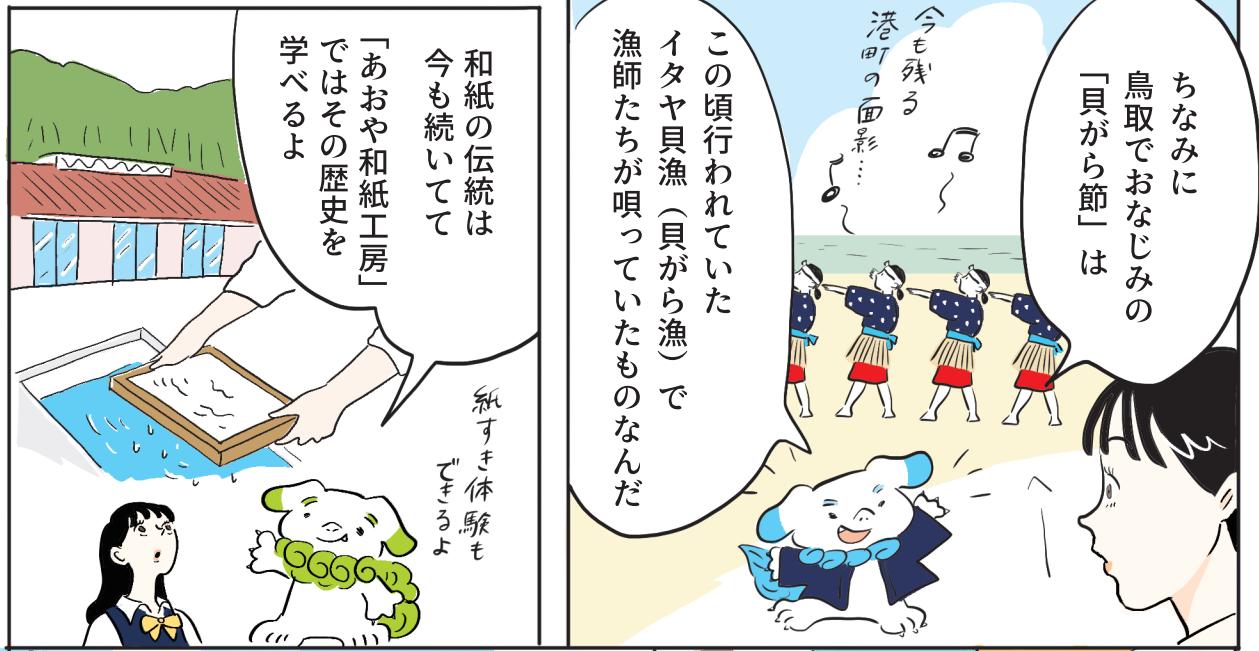




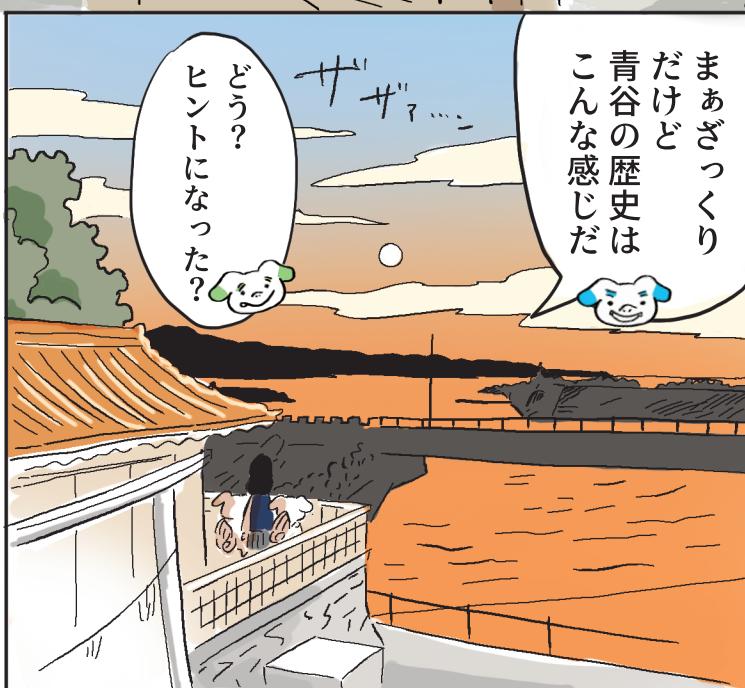
ちなみに
一回で得る利益は
今の価値で1億円ほど
だつたらしい

1億！





豊かな海があつた
からこそだね



まあざつくり
だけど
青谷の歴史は
こんな感じだ



うん…なんかいい
アイデアが浮かんで
きそう！

よーし、それじゃ
最後にとつておきの
ところに連れてって
あげる！

それは
よかつた

え

わ、

おれたちの
お気に入りの
場所さ

長尾鼻にある
「長尾鼻灯台」だよ

*実際は海上保安庁の
許可がいります

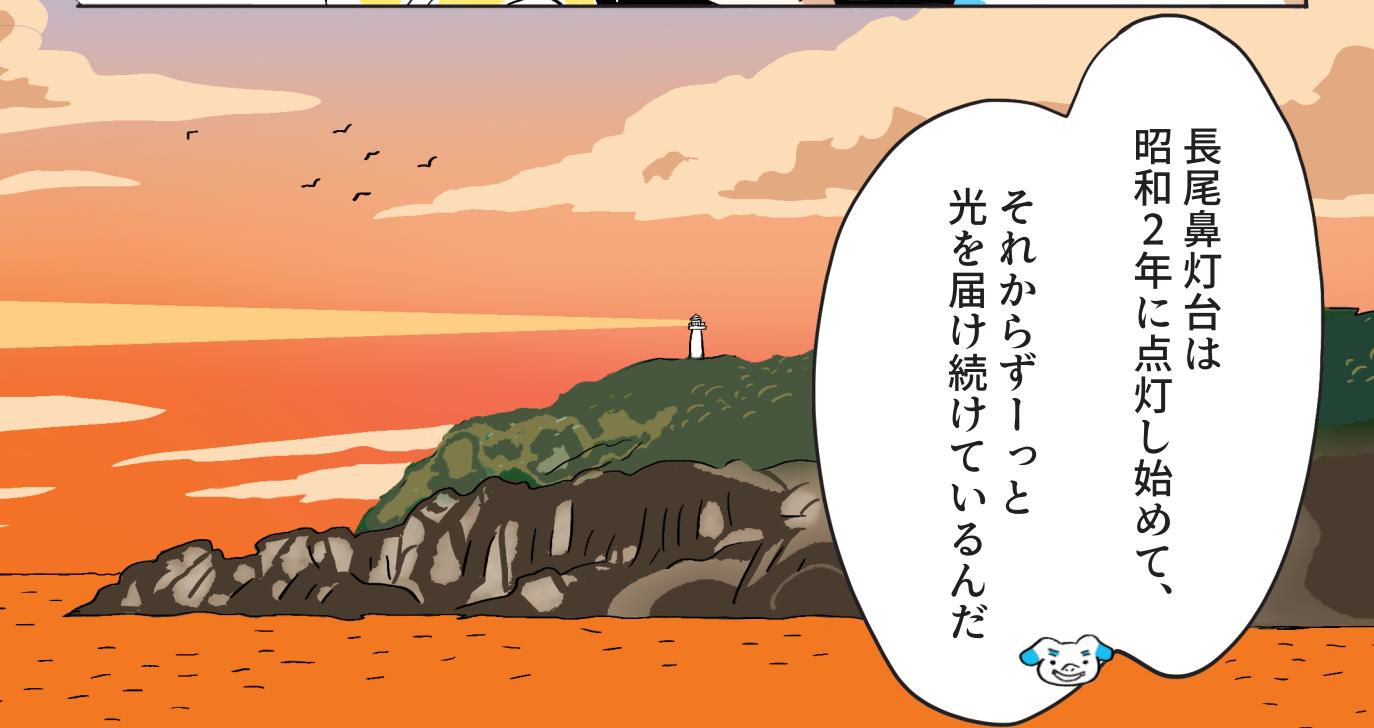
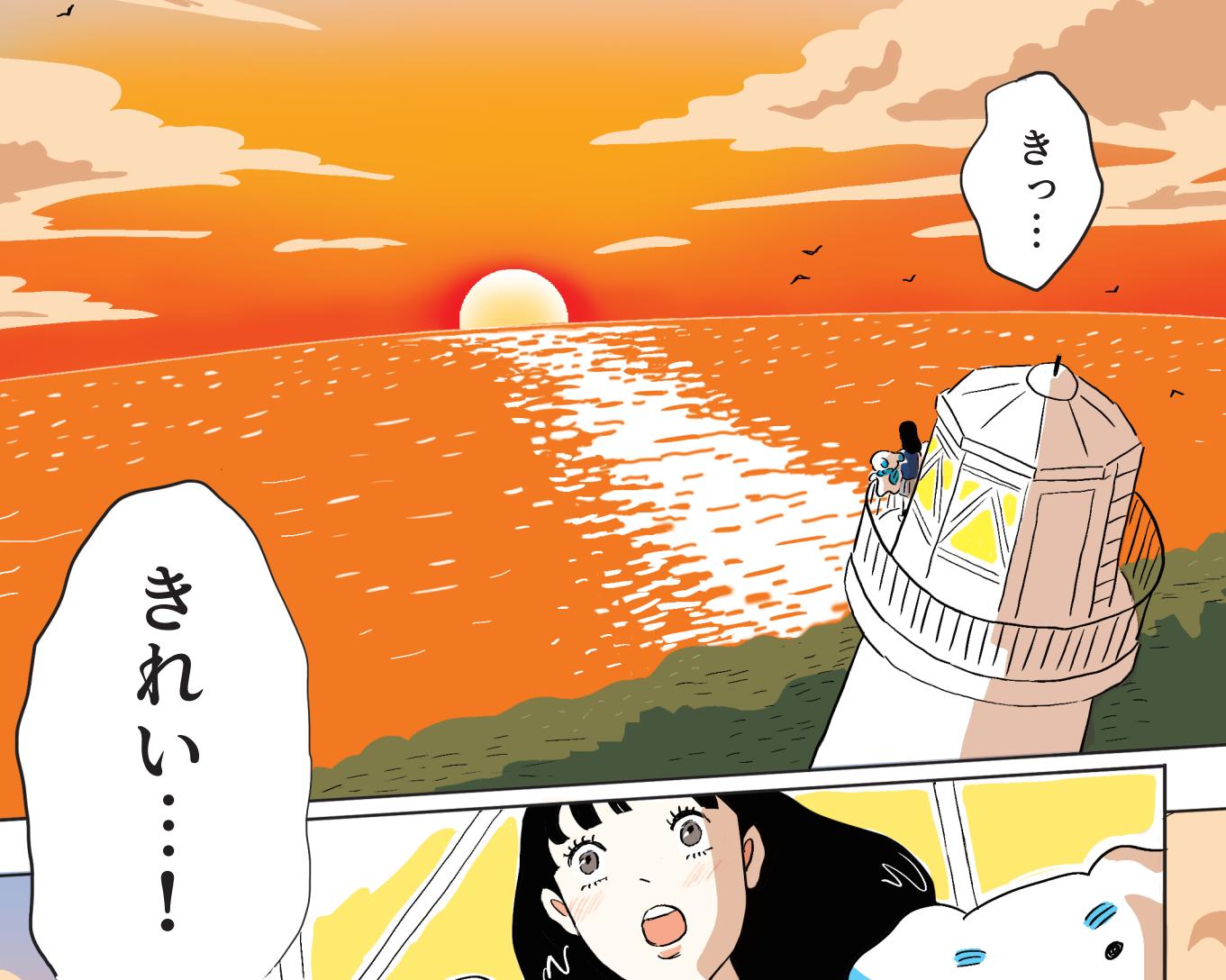
わ、

あつ…

きれい…！

それからずーっと
光を届け続けているんだ

長尾鼻灯台は
昭和2年に点灯し始めて、



太古のむかしから
今に至るまで、

長尾鼻はこの地を見守り、
海と陸をつなげてきた…

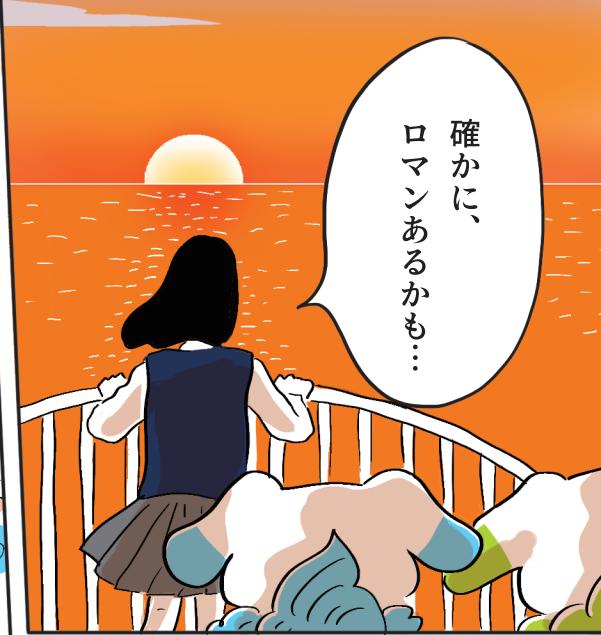
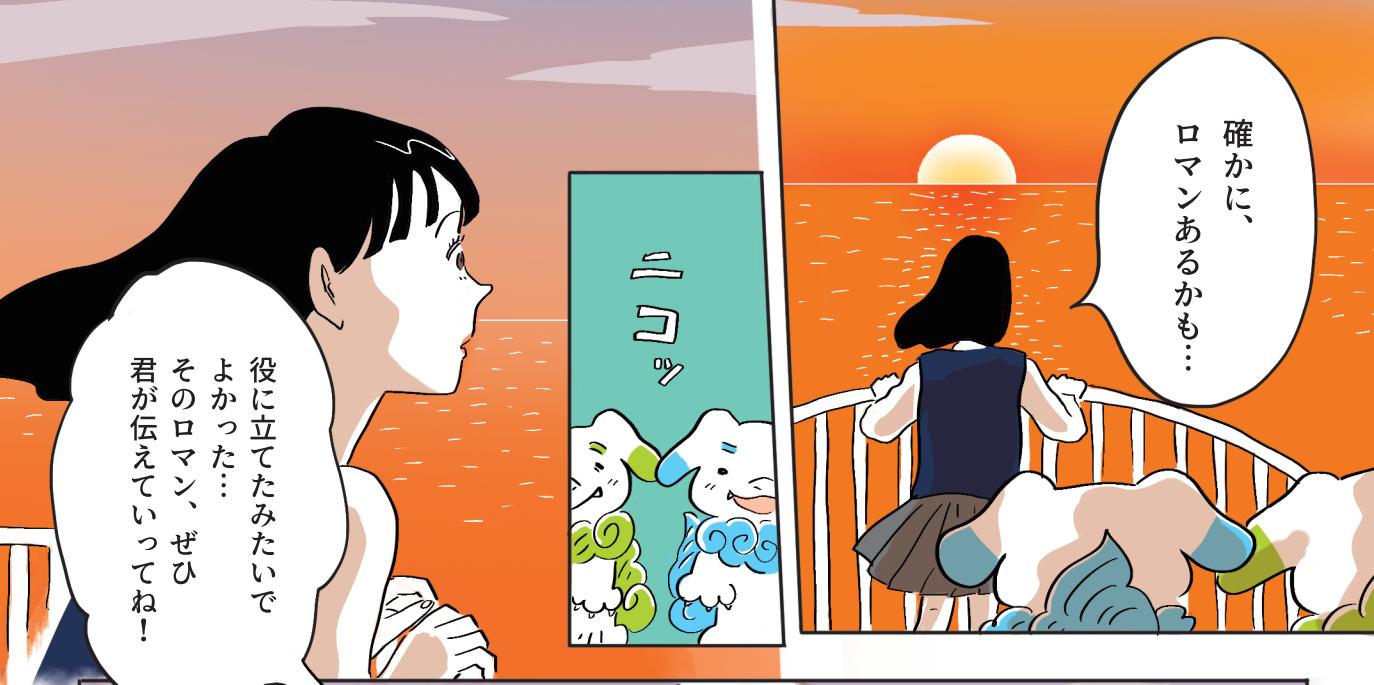
それが
青谷なんだ

海とともに
生きてきた町…

だけえ海とか川を
たどつたら
自然と歴史が
見えてくるんだ！

海とともに…

確かに、
ロマンあるかも…



どこのくの？

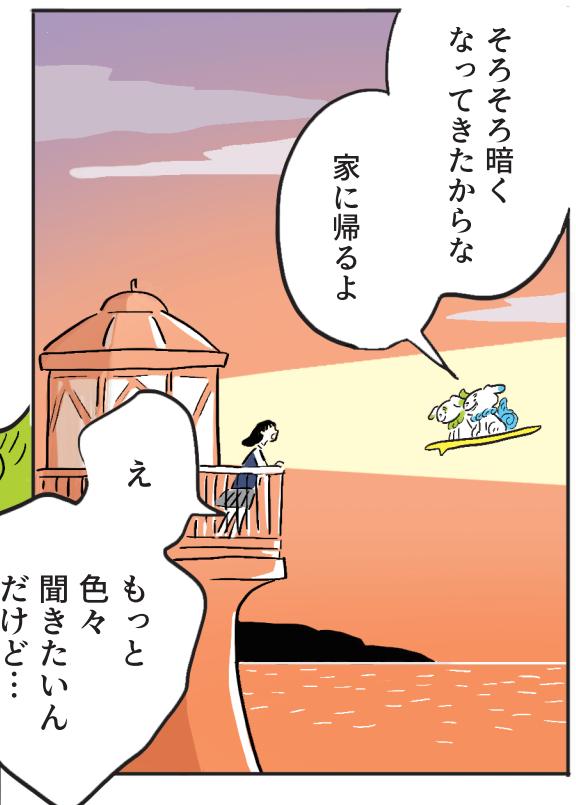
そろそろ暗くなつてきたからな

家に帰るよ

今度は自分でも調べてらん！
君なら大丈夫！

あ、これお土産！
青谷の特産品！

え
もつと
色々
聞きたいん
だけど…



—灯子がみたのは
夢か幻か…

その後、

灯子は熱心に青谷を
散策・調査するよう

子守神社



歴史を知ると

いつもの町が
以前に増して輝いて
見えるのでした



そして—

考えて
みました！

お店の新しい
コンセプト



ズバリ、テーマは
青谷のロマン！



—みたいな
感じどう？！

めめちやくちや
いいがな！！



お店の方向性は定まり、
新メニューも続々登場——





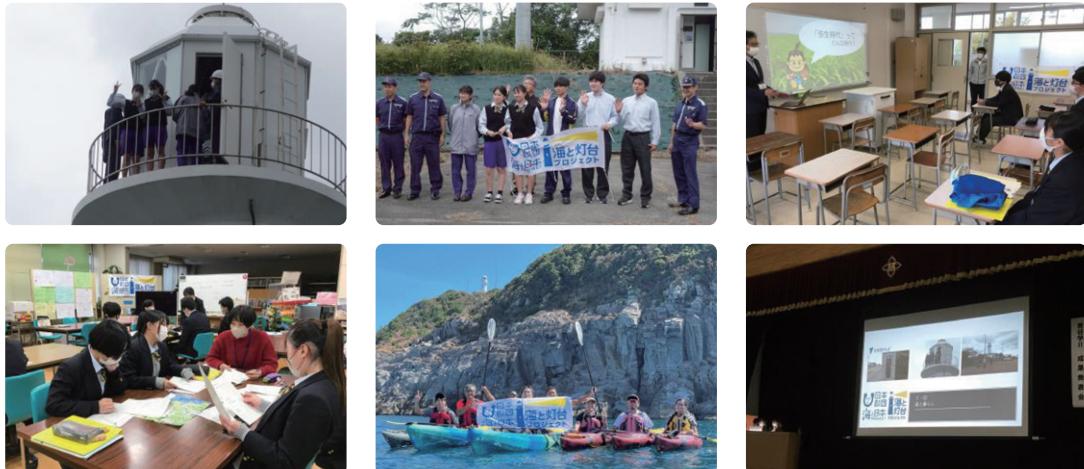
END

そこにあったのは鳥取の海のロマン 青谷灯台物語

鳥取市青谷地区振興プロジェクト実行委員会は、「新たな灯台利活用モデル事業」(一般社団法人海洋文化創造フォーラム)の採択を受け、「青谷長尾鼻灯台利活用八良い(弥生)事業」を実施しています。

このマンガは、本事業において、鳥取県立青谷高等学校との連携により作成したものです。地域の海とのかかわりの歴史や長尾鼻灯台について学ぶ授業を実施し、海と灯台の魅力や価値について、イラストレーターの伊吹春香さんとともにシナリオを作り、マンガを作成しました。

「青谷長尾鼻灯台利活用八良い(弥生)事業」は、新たな海洋体験を創造していく「海と灯台プロジェクト」の一環です。



*詳しい内容は、YouTube「海と日本 長尾鼻灯台」で検索

「海と灯台プロジェクト」とは?

人と海は、時間的にも空間的な意味においても「灯台」を境に関わってきました。航路標識として、従来の船舶交通の安全を担うという重要な役割から広がりつつある灯台。その存在意義について考え、灯台を中心に地域の海の記憶を掘り起こし、地域と地域、異分野と異業種、日本と世界をつなぎ、新たな海洋体験を創造していくプロジェクトです。海と灯台プロジェクトは、日本財團「海と日本プロジェクト」の一環です。



海の安全を守ってきた「長尾鼻灯台」

長尾鼻灯台は、鳥取市青谷町の長尾鼻に立つ灯台。設置当初(昭和2年)は、簡易な柱の上に光が灯されていましたが、戦後まもない昭和28年にコンクリート造りの立派な灯台になりました。なお、昭和44年までは灯台に宿舎があり職員・家族が居住していました。無人となった現在も、沖行く船の安全を見守り続けています。



海上保安庁 境海上保安部 次長 平山浩 作

港町として栄えた青谷

青谷の勝部川河口には、江戸時代から明治時代にかけて芦崎湊と呼ばれた天然の港があり、たくさんの廻船が往来しました。川岸には廻船問屋が建ち並び、港町として大いににぎわいました。
現在も、船主集落の町割りや、廻船の積み荷を運んだ「津出し路地」が残っています。河口近くにある湊神社(元湊八幡宮)には、いずれも当時の廻船問屋などが寄進した石灯ろうやこま犬、廻船(北前船)の模型などが残されています。これらの中には、寛政13年(1801)に赤間関(今の下関市)の商人が廻船(北前船)で運び寄進したこま犬があります。



撮影 松原雅彦

Credit 

- 主 催 鳥取市青谷地区振興プロジェクト実行委員会
- 共 催 日本財団 海と日本 PROJECT
海洋文化創造フォーラム
- 運 営 鳥取市青谷地区振興プロジェクト実行委員会(委員長 岸本雄司)
- 運営協力 日本海テレビ
- 調査協力 鳥取県立青谷高等学校
- 原案・調査 青谷学 II 文学・歴史
久野 忍 倉繁健太 幸山 萌 古川 夢 森田愛結美 井口日翔
担当教諭 奥田政治

Special Thanks

- 長尾鼻灯台調査 海上保安庁境海上保安部 次長 平山 浩
- 現場整備 青谷町磯釣り組合
- ドローンで灯台を見よう 株式会社 skyer 宇佐美孝太 松岡飛鳥
- 海から灯台を見よう 鳥取県自然体験塾 長谷川浩二
- 青谷と弥生文化と長尾鼻灯台 鳥取県とっとり弥生の王国推進課 濱田竜彦

- 
- 監修 鳥取市青谷町総合支所地域振興課 松原雅彦
 - ディレクター 竹之内淳
 - 企画・プロデュース 仲子宏明(日本海テレビ)
 - 編集 パニラ
 - 漫画 伊吹春香



今回ストーリー作成から作画まで担当させて頂き、自分自身も青谷の歴史を楽しく学ぶことが出来ました。
実をいうと、ずっと鳥取に住んでいたのに長尾鼻灯台の存在を知りませんでした。また、実際に青谷の町を回ってみて、
こんなに絶景がたくさんあったのか…と新しい発見がたくさんでした。(この感動は夕焼けのページに込めました。)
この漫画を通して長尾鼻灯台の魅力がもっと広まっていってくれたら嬉しいです！

令和5年度OPEN！青谷かみじち史跡公園

令和5年度には「青谷かみじち史跡公園」がオープン！「とっとり弥生の王国」に新たな魅力が誕生します。

国内屈指の弥生時代遺跡“青谷上寺地遺跡”をぜひ体感してください。

- 重要文化財棟で、“弥生の美”を満喫。
- 展示ガイダンス施設で、青谷上寺地遺跡を知り、弥生時代に詳しくなろう！
- 弥生時代の地形を再現。広々とした公園をゆったりと散策しよう！

展示



ガイダンス棟

“弥生の里めぐりが楽しめる！”

（海の民）、「ものづくりの匠」たちが暮らしていた
青谷上寺地の世界観を体感！



重要文化財棟

鑑賞！“弥生の美”

青谷の弥生人が造り出した弥生時代の最高傑作。
国の重要文化財に指定された出土品をじっくり
御覧いただけます。

音声解説の導入など、多くの方々に
楽しんでいただける展示を目指しています。

施設

○体験学習室（最大90人利用可能）

- 日常的なお手軽弥生体験のほか、ものづくり体験、歴史講座など弥生文化に関する様々なプログラムを行います。
- 学校活動、地域活動等にも利用いただけます。

○その他設備

- 駐車場（一般31台、車いす・ハートフル各2台）
- 別途第2駐車場あり（大型バス6台、普通車20台）

障がいのある方への対応など、バリアフリーに配慮した施設整備を行います。



青谷の街で味わえる「弥生グルメ」

青谷弥生人が食べていた食材（古代米、鳥獣肉、木の実など）を用いた青谷でしか味わえないグルメがたくさん。ぜひ一度ご賞味下さい！



カリッとホクホク！弥生のスイーツ

青谷かみじち跡のまち
弥生グルメ

古代米、鳥獣肉、木の実、小豆、穀物、貝類など、
古来から人々が食べて来た食材をいかして、
つくりあげたおやつメニューです。
お土産やギフトとしても喜ばれています。

発見するおやついっぱいのパフェ

青谷上寺地遺跡の土産菓子「ひまわり」

出土品がモチーフの米粒クッキー

弥生人のおやつ！あんこバターサンド

出土品みそババロア

出土品みそババロア

出土品がモチーフの米粒クッキー

弥生のクッキー

弥生時代に想いを馳せて召し上がり

弥生人サンド

出土品がモチーフの米粒クッキー

弥生のクッキー

弥生の食文化

青谷かみじちおもてなしプロジェクト



弥生グルメの詳細は[こちら](#)！



青谷町観光協会HP

